

(様式第1号)

自己評価及び外部評価結果票

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4171600200		
法人名	有限会社 コトブキ		
事業所名	グループホーム 江北紀水苑		
所在地	佐賀県杵島郡江北町大字上小田1261番地		
自己評価作成日	平成22年 2月 5日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigojouhou-saga.jp/kaigosip/Top.do
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成22年2月25日	外部評価確定日	平成22年4月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

職員の連携、チームワークの強化に力を入れている。記録の充実を目指し、情報の共有化に努め、利用者及び家族が安心して、心地よく過ごしていただけるよう、より良いケアの提供のために、日々学習し取り組んでいる。普段のケアにおいても、また、新しい方法を取り入れるときも、本人のペースに合わせ、ストレスを感じさせないように、利用者様本意の支援を心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

理事長の地域に役立ちたいという思いから、開設されたグループホームである。そのため、地域との交流も多い。老人クラブの運動会や食事会に参加したり、文化祭の見学に出かけたりしている。職員も老人会の会合に出席する事もあり、認知症についての啓発と理解に努めている。近所の方が野菜を持って訪れる事もある。近所の家庭と緊急通報システムが整備されている。また、運営推進会議でも地域との関わり方について度々協議されている。これらは、地域との結び付きの一例である。避難訓練には住民も参加している。職員は、利用者を年長として敬い、敬意を払いながら、理念である「地域の中で、明るく、楽しく、心地よく」の実現を目指して、毎日のケアにあたっている。職員が一体となって意見や考えを出し合い、利用者や家族の思いや希望を活かし、サービスの向上を常に目指している。研修の機会も多く、同じ町内のグループホームと職員同士の交流もおこなわれている。管理者は考え方が柔軟で、運営に関する意見にもよく耳を傾けている。さりげない支援のもとに、利用者がその人らしく、ゆったりと自分の生活リズムで過ごしているグループホームである。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『たのしく あかるく こちよく』の理念に沿って、家庭的な雰囲気と地域交流の下、利用者一人一人が自分らしく暮らしていけるように支援している。 施設内に理念を掲げ、スタッフ会議の時は理念に基づき、意見交換を行っている。	玄関や事務室に理念が掲げてあり、毎日の打ち合わせや、定例の会議で確認している。管理者は、日頃の支援の在り方を運営理念に基づいて、具体的な指導や、話し合いにより支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	近所の方より、栽培された野菜や花を頂くなどの好意的な近所づきあいをしている。 また、文化祭やお祭り、老人会へのお誘いを頂き積極的に参加するように努めている。運動会では競技参加の為に枠を設けて頂くなど、受け入れてもらっている。	地域の役に立ちたいとの考えから、事業所が開設されている。そのため、日頃から地域との交流を心掛けている。地域の自治会にも加入し、回覧板も回している。奉仕作業には参加できない場合が多いが、地域老人会の会合に出席し、認知症の啓発に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	町の行事やイベント等に参加し、認知症の人の理解や支援方法を、地域の人々に向け示している。また、事業所の行事等の見学、参加も受け入れている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	偶数月に運営推進会議を開催し、会議メンバーより率直な意見を頂き、検討している。また、苑からも情報を提供し、客観的な意見を頂き、現在提供しているケアで満足してしまわないよう、サービスの質の向上に活かしている。	2ヶ月毎に開かれ、中身の濃い話し合いが行われている。地域との関わりも議題に取り上げられ、老人会の食事会への誘いがあったり、老人クラブ運動会へ参加もしている。緊急時における地元の協力体制も話し合われ、緊急通報体制が出来ている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居希望者の情報や行事などについて、日頃から町の社会福祉協議会や地域包括支援センターと連絡を取り合い、円滑なケアサービスの提供に努めている。	管理者は行政の福祉関係者と情報を共有している。同じ町内のグループホームとの会合も、行政の仲介で実現し、有効に機能している。また、民生委員会の会議に、必要に応じて出席する事もある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を通して、全職員が理解を深めるよう努めている。日中は玄関の施錠はせず、センサーを使用しているが、センサーに頼ってしまわないよう、職員による見守りを徹底している。帰宅願望については制止するのではなく、寄り添うケアにて対応している。	身体拘束はなく、利用者の閉塞感もない。言葉や口調による禁止や心の拘束も無いように、勉強会でも確認している。玄関の出入りは自由で、職員の間で確認したり、気配を察して付き添ったりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に関するマニュアルを整備しており、『身体拘束ゼロ宣言』を行っている。研修会に参加したり、勉強会を開催し、理解を深めるよう努力している。また、外出・外泊の前後の入浴時などに、身体のチェックを行うようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は定期的に関われているグループ本部主催の勉強会へ参加し学習している。実際に問題に直面した時に、対応できるよう備えている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学に来られた際や契約時に十分な説明を行い、苑の方針や入居後の生活について理解・納得していただいた上で契約を結ぶようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置している。面会時や行事の際などに利用者の状況を報告し、また家族からの意見や要望を聞くようにしている。必要に応じて家族との面談を行い、話し合う機会を設けている。それらを基に職員間で話し合い、ケアに反映させている。	利用者と同じように、面会時や家族会の時、明るく、笑顔で家族と接し、何でも話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族アンケートも実施し、回答の裏にある声なき声を汲み取る様になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の全体会議や定期的に関別面談をおこない、職員の意見や提案を反映させている。また、毎朝の申し送りを利用し、随時意見等が聞けるようにしている。	毎日の引き継ぎ時や定例会議で自由に意見が出され、運営に反映されている。即座にサービスに活かすこともある。職員との個人面談では、人間関係に話が及ぶ事もある。それぞれの職員の持ち味を活かしながら、共通の認識に立った支援が行われている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や各職員の勤務状況を把握し、研修参加や資格取得、実績、日頃の勤務態度等を評価しながら給料、賞与に反映させている。また、職場環境・条件についても、定期的に面談を行うなどして確認し、全体のバランスを考えた上で、働きやすい環境の提供に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修会に参加しやすいように勤務の一環として研修が受けられる職場環境作りが行われている。法人の研修会だけでなく事業所内の研修も隔月行われている。内容についても取り上げて欲しいテーマなど、職員の希望を取り入れるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年2回他のグループホームと交流研修会の機会を設けており、研修後は他のグループホームの職員と発表会も行っている。入居者同士の交流会も行われている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に家族や本人から希望、要望、不安を聞き、その他をまとめて基本情報を作成し、職員全員に周知徹底を図り、安心と信頼に向けた関係、環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族、管理者、ケアマネージャーとで話し合う機会を作り、家族の要望、不安等を聞き、施設の理念、方針を説明し、安心・信頼できる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所以前の情報を収集し、その人の状態と性格、家族や周囲との係わり方を把握した上で、その時に必要としているケアを提供できるかを見極める。最も望ましいサービスを共に考え、協力するよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の際に調理方法や味付けを聞いたり、洗濯物や買い物など家事全般を通して、出来る事は共に行うようにしている。また昔の暮らしぶりや慣わしなどを教わったり、相手を尊敬する気持ちを持って接している。お互い支え合い、信頼関係を築けるように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月入所者様の状態や行事の報告を、お手紙や『苑便り』にて伝えている。その他、状態の変化があった時などは電話連絡を密に行い、ご家族様と共に支えていく関係作りを心がけている。病院受診や理美容については、家族との交流の場として捉え、負担にならない程度、家族の出番を作るようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会や、外出の機会をもうけ本人の身体レベルを考慮しながら支援に努めている。	利用者の回想や希望を汲んで、本人が過ごした所の近くや馴染んだ場所まで出かけている。買い物の時、かつての顔なじみの方に会い、会話を交わすこともある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員全体で入所者同士の関係把握に努め、毎日のレクリエーションや交流の場を設けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院や他施設へ移動後もお見舞いや訪問を行い、困った事があれば、いつでも相談に来ていただけるようお伝えしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	家族の希望を確認し、職員間で入所者にとって良いと思われるケアの提供の為にカンファレンスを行い、アセスメントし介護計画に沿って支援している。入所者一人ひとりに担当職員を設け、個別的に観察し、把握するよう努めている。	入居時の諸情報から、生活歴や意向を活かした支援を行っている。入所後も利用者との会話、つぶやき、ちょっとした行動、家族や関係者の話等からも、気持ちや希望を察して、支援にあたっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所の際に、家族や本人から生活歴や馴染みの暮らし、生活環境、サービス利用の経過など、基本情報を収集している。入所後の生活において、環境の変化に対するストレスが、出来るだけ少なく済むようなケアの提供を心がける。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員間で連携を図り、入所者の状態について情報を共有し、個別的なケアを行う。また、申し送りや、経過記録などで、職員一人ひとりが意識的に自ら情報を収集する姿勢で取り組むよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入所者一人ひとりに担当職員を設け、ケアマネージャー、担当者を中心にカンファレンスを行い、アセスメントし介護計画を作成している。支援方法について、家族や入所者に希望や要望をうかがい、計画に取り入れるようにしている。	利用者本人や家族の希望や要望を十分に汲みとり、関係者全員で計画を検討している。家族と話し合いながら目標を達成するため、本人本位の具体的な介護計画が作成されている。計画案は、随時、または3ヶ月毎に見直されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入所者専用申し送りノート、全体申し送りノートを利用し、ケアの実践・結果・気づきや工夫を記入し、職員間での情報の共有に努め、実践や介護計画の見直しに活かしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診同行、行政への手続きなどは要望に応じて対応している。また、オムツ、下着、衣服の調達についても家族に確認し、依頼されれば出来るだけ安価なものを購入するなど協力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方から毎月配布物で、地域行事、活動などについて情報を確認し、また町内の音楽ボランティアの訪問があり協力が得られている。また日々の生活の中で職員と共に買い物に出かけたり、地域の行事にも参加したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前のかかりつけ医への受診を継続的に支援している。また、協力医療機関との連携により、日頃の健康管理が行われている。定期受診の際には、健康状態を報告・相談し医師より指導を受けている。	利用者や家族の希望を優先している。現在、全員が入居前のかかりつけ医での受診である。協力病院の往診もあり、かかりつけ医と共に、相談したり、指示を仰いだりしている。歯科医の往診も行っている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	朝・夕の申し送り時に状態を報告し、また申し送りノートを作成・記録し、職員全体での情報の共有化に努めている。入所者様の身体状況を把握し、異変があれば看護職員に報告し、適切な指示を受け、医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、介護情報提供書を作成し提供している。入院中も、随時病院と連絡をとり、病状の回復状況や入院先での様子など情報把握に努めている。退院時には医師からの病状説明、サマリーを頂き、退院後も電話連絡等で指示を得ている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り介護指針があり、入居契約時には家族にもその説明を行っている。健康状態に変化があれば随時家族との話し合いを設けている。運営推進会議等で地域の関係者に協力を得て、チームでの支援に取り組んでいる。	これまで看取りの事例はないが明確な看取り介護指針が備えられている。重度化した場合や看取りについて、入居時に納得のいく話し合いが行われている。健康状態の変化に伴って主治医の診断や指示を元にして、今後の介護について、家族の意向をその時の状況に応じて、確かめている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入所者の急変や事故発生時のマニュアルを掲示し、定期的に勉強会を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急時対応マニュアル、緊急連絡網など掲示している。火災訓練については、通報、非難、誘導、消火の訓練を、夜間を想定して、年2回行っている。	年2回、夜間を想定した火災避難訓練を実施している。消防署、近所の方、消火器関係の業者も参加しての訓練が行われている。近所の家とは、緊急通報システムで結ばれている。台風、水害を想定した災害対策マニュアルも備えている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人が自分の思いで選択できるような質問言葉かけを心がけている。また、個人情報の取り扱いについて規定し、周知徹底している。プライバシーを損ねないような気配りと言言葉かけを心がけている。	年長者に対する敬意忘れず、利用者のその人らしい尊厳の姿を大切にし、一人ひとりに合った支援を心掛けている。さりげない援助、言葉かけ等、随所にみる事が出来る。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来る限り満足して暮らせるように、本人の思いや希望を大切にし、一人ひとりに寄り添うケアを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは決まっているが、中でも出来る限り入所者一人ひとりの生活リズム、その日の体調や気分に合わせて、本人の意向を尊重して過ごしてもらえるよう支援している。レクリエーションの参加や入浴も強制することなく、入所者の意志を大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服選びは本人の好みで決めてもらい、氣候にあった服装であるかどうかの見守りを行っている。理美容は本人・家族の希望により馴染みの店に行けるように支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理の下ごしらえや味見、配膳や後片付け、食器洗い等、自分できることを職員と一緒にやっている。食事は入所者様と職員と一緒に食べている。	利用者と一緒に買い物に行った食材や、ホームの畑で採れた野菜を使った食事である。職員もさりげなく支援をしながら、利用者と一緒に食事をしている。利用者自身が出来る範囲内で野菜の下ごしらえや配膳、食器洗い等を行い、職員はさりげなく見守っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスを考え、成分表を使用し、献立を作っている。水分摂取も24時間チェック表にて管理している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの身体レベルに合わせて、口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレチェック表にて排泄パターンを把握し、個人レベルに合わせた自立に向けた支援を行っている。	一人ひとりの排泄パターンや習慣を把握し、時間を見計らってさりげない誘導をしている。また、利用者の様子から尿意を察知し、さりげなく言葉かけをしたり、便秘にもきちんとした対応がとられている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘による病気の悪化、便秘の原因などについて、社内の勉強会で学び、水分摂取の強化に努め繊維質の多い食物を摂取するなど心がけている。体操や歩行運動、を取り入れ出来るだけ体を動かすように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりのタイミングに合わせて入浴していただくように努めている。	一日毎の入浴であるが、毎日入浴の用意はできており、希望によって毎日でも入浴が出来る。利用者はゆっくりと入浴している。その方の状況に合わせて、職員が浴槽に入って介助している。寒い日は、足浴で足を温める事もある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起床・消灯時間は決めておらず、昼寝する・しないも本人の自由に行っていただいている。入所前の生活パターンを出来る限り継続し、心地良く暮らせるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	臨時薬の処方の時も一目で分かるように、熱表に記入し、入居者内服一覧表も整備している。個人記録、申し送りノートに記録し全員が把握するようにしている。日頃の行動、排便状況、血圧等を観察、記録し、担当医師に薬の調節をして頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事の配膳・後片付けは役割分担し、掃除、洗濯物たたみなどもその人の力に合わせた支援を行っている。買い物へも共に出かけ、気分転換も出来ている。与えられた作業について皆さん意欲的に取り組まれているのを感じる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に出かけたり、天気・気候の良い日には町内の公園までドライブしたり、日向ぼっこをしたりしている。また食材の買い物に入居者様と一緒に出かけ、食材と一緒に選んだりしている。	一人ひとりの希望やその時の状況に応じた外出支援である。ホームの周りを散歩しながら季節の移り変わりを感じたり、畑で働いている方と挨拶を交わしたりしている。車椅子の利用者も散歩を楽しんでいる。近くの公園やお店、外食にも出かけている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	トラブルの原因となることもあるので、原則として、現金の所持を控えていただいている。しかしながら、現金を持っていることで安心される方や、家族が持たせたいという希望があれば、小額の現金を所持していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族へ年賀状を書くようにしている。本人が自宅へ電話の要求があった場合は、時間帯を考慮してかけていただいている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	山の麓に施設が位置し、周りには田畑が広がり、窓からの景色で十分季節を感じられるほか、季節を感じる物や絵、また入居者さんが作られた作品を飾るようにしている。夏の間など日当たりが良すぎる部屋にはすだれやよしずをかけるなどして日光の調節をしている。	居間にはこたつやソファ、食卓などが程良く配置され、利用者はそこで思い思いに過ごしている。窓からの明るい光や調理の香り、台所の音が五感を刺激している。食事時にテレビを見たい利用者もあり、テレビの電源が入っている。リビング、浴室などその場所に合った室温も設定されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはテーブル、ソファをいくつかに分けて配置し、畳のスペースにはこたつを置き、気に入った場所で独りで過ごされたり、気の合う入所者同士おしゃべりをされたり、思い思いに過ごしてもらえるように支援している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや嗜好品の持込を奨励しており、写真立てやカレンダーなどを飾られるなどして、居室を思い思いに装飾していただき、本人にとって居心地の良いスペースになるよう、工夫している。	それぞれの居室が、入居者一人ひとりがゆっくりと落ち着いて過ごせる場所になっている。緑の鉢物、鏡、写真、仏壇、椅子、お気に入りの洋服等、趣味や馴染んだいろいろな物が見受けられる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日めくりカレンダー、時計を設置し、日時、曜日の確認ができるようにしている。居室入口には、表札と本人の写真を貼っている。トイレ、風呂場にも表札を付け、夜間帯でもトイレの電気はつけるなど、随所に目印を設置し、混乱を防ぐような環境作りに努めている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目))(事業所記入)
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない